

## 国策の制定

令和5年12月25日

黒田 毅

現実には未来を与えない。政治における世界の支配は、自らの計画とともに未来を有するのである。

これらは唯一誠実さにおいて現実に対峙し、可能な現実を模索していく以外選択はないのである。

これらは、世界のスーパーパワーに対して、第2の敗戦と新たな黒船という現実が存在する。

これらは国家の新たな指針を要求するものである。現状への判断の共有は、国家財政の悪化は、その返済能力を得ないものである。また軍事的な世界のバランスへの判断は必ず要求される。新たな技術文明という潮流は未来における現実なのである。

これらは、新たな国家ビジョンの形成を提案したい。産業という国家基盤は独自外交における打開を可能とするものである。また独自外交という新しい現実、既存国家ソフトとハード資産において、未来を求めることは可能である。

これらは国内における大学環境など、基本的な要求は必ず有するのである。これらは政治の舵取りが、唯一未来を実現できることを意味するものである。

国家における根本性は、教育と社会と生活である。そして産業と外交、軍と政治が存在するものである。これら根本的な国家基盤へ正しい判断と再度その構築を新規技術、システムとともに実現することは、唯一未来という現実を実現できるものである。

国民生活は2分化し、その豊かさは感じられない。これら資金が流出するからなのである。またアメリカの豊かさは資金が流入するからなのである。これらは国家の財政政策や金融政策が替政策が、必ず国益を基盤としなくてはならないことを意味するものである。

また政策や政治思想において世界との対等な対話は唯一現実への参加の条件である。これらは政治における新たな要求が存在することを意味するものである。

未来は唯一選択なのである。それは政治が有する権限なのである。